

施策マネジメントシート(平成24年度の振り返り、総括)

作成日 平成 25 年 6 月 24 日

基本目標	II	豊かな自然と共生するまち	主管課	名称	上下水道課
				課長	杉木 清一
施策	17	水道の整備	関係課		

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図	
	①町民			①安全な水道水の供給を安定して受けられる。	基本事業	
			1	水道水の安定供給	町民	安定して水道水の供給を受けられる。
			2	安全な水道水の供給	加入者	安全な水道水の供給を受けられる。
			3	水道事業の健全運営	加入者	適正な料金で水道水の供給を受けられる。
			4			
			5			

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	A	水道普及率	%	実績値	96.7	97.1				
目標値					96.7	96.7	96.7	96.7	96.7	96.7
B	有収率	%	実績値	77.9	78.0					
			目標値		78.0	78.4	78.8	79.2	79.6	80.0
C	水質に関する苦情件数	件	実績値	0	0					
			目標値		0	0	0	0	0	0
D			実績値							
			目標値							
E			実績値							
			目標値							
F			実績値							
			目標値							

指標設定の考え方と実績値の把握方法

A) 数値が高まれば、結果として町民が安全な水道水の供給を安定して受けられることに繋がるため成果指標とした。
給水人口/人口
決算統計による

B) 数値が高まれば漏水がなくなるなど、安定した水道水の供給に繋がるため成果指標とした。
決算統計による

C) 件数が減れば、町民が安全な水道水の供給を安定して受けられているといえるため、成果指標とした。
直接町に苦情を申し入れた件数

目標値設定の考え方

A) ある程度高い水準にあり、住民の中には水道水よりも自家水道(井戸水など)を希望する人がいることから今後大幅に数値を上昇させる必要性は低い。また、山間部に位置するという地形や財政面を考慮すると短期的に数値の向上は困難。【国平均:96.9%(H23)、県平均:66.0%(H23)】

B) 今後人口の減少に伴って水道利用者は減少すると考えられ、水道会計を安定的に運営するためにも有収率の向上は不可欠。財政的な面を考慮すると数値を大幅に向上させることは困難であり、水上地区や新治地区の石綿管の更新を実施し、有収率を徐々に向上させる。【(上水道)国平均:91.5%(H23)、県平均:84.1%(H23)】

C) 水道施設遠隔監視システムの導入や浄水場の取り入れ口に濁度計を設置するなど、水質に関する苦情を大幅に減少させた。しかし、根本的な解消が進んだわけではないため、自然災害の濁り等に対処できる体制づくりや安全で安定した水源を活用することで、安定的に苦情件数0件をめざす。
※濁度は水源が濁って、給水区域が給水不能となったことを表している。

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①節水に努める。 ②水道を使用した場合は使用料を納入する。	①水量を確保し、水質を向上させる。 ②水道施設を整備・充実する。 ③水道事業を適正に運営する。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	①経営の観点からすれば、人口が減少すると水を使う人が減るため、水道料金の徴収額は上がらない。 ②平成26年度から公営企業の会計の仕組みが変わり、借入金が負債として計上されるようになるため、一般の企業と同様の方法で、経営状況を把握できるようになる。現状は借入金が見えにくい状況。 ③平成28年度以降、町は簡易水道の補助金を受けられなくなる。 ④地区の組合で管理している水道の経営が困難になる。	①水道の安定供給(水圧・水質)を望む声が、毎年数件寄せられている。 ②下水道区域の水道料金については、下水道料金が上乗せになっているため、水道料金が高いという声がある。 ③近年、修繕工事等においてやむを得ず断水することがあるが、特に事業者からの断水件数(災害・事故・工事)を減らしてほしいという声がある。また、事後のアカ水発生、空気混入等の問題もある。多数の使用者が影響を受けるような修繕等は、高コストを覚悟の上、不断水工事を採用する傾向にある。

施策	17	水道の整備	主管課	名称	上下水道課
				課長	杉木 清一

		実績比較	背景・要因
施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	① 時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	①水道普及率は、平成23年度の96.7%から平成24年度は97.1%となり、上昇している。 ②有収率は、平成23年度77.9%から平成24年度の78.0%と年々上昇している。 ③水質に関する苦情件数はほぼ0になって来ているが、根本的な解消が進んだ訳では無いため、これから先も自然災害(大雨)に対処出来るような体制作りをしていく。 ④平成24年度の水道使用料収納率は前年と比べると高くなってきている。
	② 他団体との比較	<input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	①平成24年度の水道普及率は、97.1%であり、平成23年度の全国平均97.6%や県平均99.5%と比較して低い。山間部で高低差があるため、平地に比べて整備率が低くなっている。また、住民の中には水道水よりも自家水道(井戸水など)を希望する人もいる。ちなみに、沼田市の水道普及率は99.6%となっている。 ②平成24年度の有収率は、みなかみ町では78.0%であり、全国平均91.5%や県平均84.1%と比べ低い。特に水上地区で低く、有収率を向上させるために老朽化した石綿管等の布設替えを計画的に実施している。県内の石綿管構成率は全体で4.2%で、みなかみ町の石綿管構成率は1.3%で群馬県内の市町村の中では高い方である。
	③ 目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	①水道普及率は目標値どおりであった。 ②有収率は、大穴地区は老朽管(石綿管)の布設替を継続工事を進め向上に効果を上げている。 ③水道遠隔監視システムをH24年度に町全体が一つの監視システムで監視が出来るようになり、職員全員が同じ形の維持管理(細かなチェック)が出来るようになり水道水の安定供給が出来るようになった。
成果実績に対する総括	①町内水道施設の遠隔監視システムを統一にしたことにより安定した一元の管理が出来るようになった。 ②大穴地区の石綿管の布設替えは、予定どおり600m完了した。 ③地区要望のあった竹改戸地区の圧力解消工事が予定通り完成し安定した水道水の供給が出来るようになった。 ④合併前からの懸案事業であった川上地区の圧力解消工事(配水池・送水ポンプ室・配水管・送水管)が終了した。 ⑤北部簡易水道地内の石綿管の布設替を行い安定した水道水の供給が出来るようになった。 ⑥北部簡易水道地内(奈女沢地区)に送水管新設工事を行い安全な水道水の供給を行えるようになった。		

		基本事業名	今後の課題	平成26年度の取り組み方針(案)
今後の課題と取り組み方針(案)	1	水道水の安定供給	表流水の水質が悪化したため、豊富な湧水の有効利用。 老朽化した浄水施設は、水需要予測による将来水量を考慮して必要性が高い順に施設更新する必要がある。 配水池としては、十分な配水池容量を確保しているが、水系別に見ると、標準とされる12時間分を確保出来ない水系がほとんどであるため、既存施設を有効に利用できるよう施設の統廃合を進める。	水源を表流水から湧水に変更。 計画的な送水管の布設工事に着手。(平成26年度～平成28年度) 計画的な浄水場の更新工事に着手。(平成26年度～平成30年度)
	2	安全な水道水の供給	配水管網での水質管理水準を向上するため、末端給水栓等で水質検査のほかに、定期的な管網での実測調査等を行い、配水圧・残留塩素濃度等の把握に努める必要がある。 みなかみ町内の水道管には石綿セメント管が残っているため、引き続き更新事業を積極的に進める必要がある。	老朽管及び石綿管の布設替工事を実施する。
	3	水道事業の健全運営	みなかみ町では経費の削減に努めながら、水源開発やこれに伴う施設整備に多くの投資を行っている。今後の事業運営は、料金収入の増加が見込まれない中で、水道施設の更新・改良時期を迎えているため、経営基盤を一層強化していく必要がある。このため資金の確保、企業債残高の削減に計画的に取り組む、財政バランスを見ながら効率的な事業運営に努めていく必要がある。	料金徴収事務全般にアウトソーシングを導入する。 資金を確保するため、起債・過疎債・合併特例債を計画的かつ有効に活用する。
	4			